

上 八 万 中 学 校 総 括 評 価 表 (令 和 3 年 度)

		自 己 評 価		学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 へ の 課 題 と 今 後 の 改 善 方 策	
重 点 課 題	重 点 目 標	評 価 指 標 と 活 動 計 画	評 価	学 校 関 係 者 の 意 見		
1 確かな学力の育成	① 「わかる授業」の展開 ② 言語活動の充実 ③ 特別支援教育の充実	評 価 指 標 生徒アンケートにおいて ①-1 「授業の内容はよく理解できる」が80%以上。 ①-2 「先生は授業のめあてを提示したり、プリントなどを工夫したりして、わかりやすく指導している」が80%以上。 ②-1 「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることができる」が60%以上。 ②-2 「体験活動や実践活動で得たことが自分の生活に影響を与えている」が80%以上。 ③-1 特別支援教育の視点を生かした生徒理解・生徒指導を行う。 ③-2 特別支援教育についての研修を行い、教職員の専門性を高める。 活 動 計 画 ①めあてを提示し、振り返りの場面を設定するとともに、ICTを効果的に活用する。 ②答えが一つでない課題を提示し、考えや理由を話したり書いたりする場面を設定する。 ③個に応じた支援と授業のユニバーサルデザイン化を図る。	評価指標による達成度 ①-1 89.1%で目標を達成できた。 ①-2 94.9%で目標を達成できた。 ②-1 84.6%で目標を達成できた。 ②-2 80.1%で目標を達成できた。 ③-1 生徒の困り感に特別支援教育の視点からのアプローチをするとともに、通知や資料等を回覧し、共通理解を図った。 ③-2 職員会や初任者研修で特別支援教育についての研修を行い、教職員の専門性を高めた。 活動計画の実施状況 ①保護者アンケート「授業を通して子どもたちに学力がついている」89.8% ②「深く考えるためのキーワード」を授業に取り入れた。総合的な学習の時間を中心に、すべての教科において課題解決的な実践を行った。「よりよく伝える・つながる」授業を意識し、言語活動の充実を図ることができた。 ③個別最適化した学びと教科の特性に応じてICTを効果的に活用した授業を行った。	総合評定 (評定) A (所見) ①振り返りプリントを活用するとともに、休み時間や放課後に生徒への個別指導を行った。保護者アンケートの結果(「本校では、子どもに適切に課題を与えている」94.9%)からも明らかのように、家庭学習を充実させ、学力の定着を図ることができた。 ②「考えるためのキーワード」を作り、思考・判断の視点を明確にした。総合的な学習の時間や各教科で答えが一つでない課題を提示し、考えや理由を話したり書いたりする実践を行った。 ③可視化を図ることで、「わかる授業」の工夫が行われていた。	<ul style="list-style-type: none"> ・未来を生きる子どもにつながる力を、体験を通して身に付けている。 ・双方向のやりとりをするとタブレットの画面が固まったり、接続できなかつたりする。GIGAスクール構想を円滑に進めるための環境を整える必要がある。 ・子どもがタブレットを持ち帰り、Zoomの接続方法等、学校で学んできたことを教えてくれるので、PTAの役員会をオンラインで実施できた。 ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の育成には基本的な生活習慣の確立が必要であることを、引き続き生徒及び保護者に周知徹底していく。 ・各教科における課題解決的な実践が、総合的な学習の時間を中心とした課題解決的な実践につながるようカリキュラムマネジメントを進める。 ・タブレットの効果的な活用について実践を進める。 ・特別な支援の必要な生徒への配慮についての校内外研修の充実を図る。
		評 価 指 標 生活アンケートにおいて ①-1 「自分のことが嫌いな時もあるが好きな時もあり概ね好きである」が70%以上。 ①-2 「毎日の学校生活が楽しい」が85%以上。 ② 「他の人の気持ちを考えながら行動することができる」が80%以上。 活 動 計 画 ①休み時間に教員が廊下や運動場において声をかけること、授業において「話す」「聞く」機会を設けることで、生徒と生徒、生徒と教員のコミュニケーションを充実させ、自己肯定感を醸成する。 ②-1 「考え、議論する道徳」を通して、さまざまな価値観に触れながら、自己の生き方を見つめ、よりよい生き方を志向する態度を育む。 ②-2 生徒自身が自分の役割を自覚し責任を果たすことをとおして、達成感や満足感を感じることができるような体験活動や実践活動の充実を図る。	評価指標による達成度 ①-1 61.6%で目標を達成できなかった。 ①-2 82.7%で目標を達成できなかった。 ② 85.9%で目標を達成できた。 活動計画の実施状況 ①休み時間に教員が廊下や運動場において声をかけること、授業において「話す」「聞く」機会を設けることを通して、生徒と生徒、生徒と教員のコミュニケーションを充実させることができた。 ②-1 時機を捉えて内容項目を指導することにより、道徳性の育成に努めることができた。 ②-2 生徒会活動や学校行事等において、生徒が自ら考え、行動し、達成感を得られる取組を進めるとともに、外部講師を招くことで体験活動や実践活動の充実を図ることができた。	総合評定 (評定) B (所見) ①仲間作りや日々の声かけ、人権教育や「できる」を実感する授業を通して、自尊感情をさらに高めていきたい。 ②生徒の感想に「相手の目を見てどのような思いをもっているのかを推し量りながら会話をする」「雰囲気が悪くならないような会話を心がける」とあるように、校訓「敬和」を志向する態度を育むことができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や体験を通して、自信を付け、自分を表現できるようになっている。 ・学校行事等で子供たちに会う機会が少なくなっているが、挨拶をよくしてくれるのは日頃の取組の成果だと思う。 ・コロナ禍ではあるが、工夫してできることをやっけていこうとしている点が良い。何もしないよりは何かしたら進んでいける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育や日々の声かけ、「できる」を実感する教育活動を通して、自尊感情をさらに高めることができるように、引き続き全教職員で取り組んでいく。 ・教師と生徒のさらに強固な信頼関係の構築に向け、全ての教職員で連携を密にし、課題を共有する。
3 たくましく生きる力の育成	① 健康教育と食育の推進 ② 安全教育の推進	評 価 指 標 ①-1 生徒アンケートにおいて「毎朝朝食を食べている」が90%以上。 ①-2 保護者アンケートにおいて「本校では健康の増進や体力の向上に取り組んでいる」90%以上。 ②-1 登下校における事故を昨年度よりも少なくする。	評価指標による達成度 ①-1 94.9%で目標を達成できた。 ①-2 90.5%で目標を達成できた。 ②-1 坂道での車との接触、自転車での転倒等があった。	総合評定 (評定) A (所見) ①きめ細かい生活指導により、一定の成果を上げることができた。 ②-1 入学説明会で交通事	<ul style="list-style-type: none"> ・約半数の生徒が睡眠不足を感じているため、就寝時間やスマホ・ゲームの使用時間について改善を図る。 	

	<p>③ 生徒主体の活動の活性化</p>	<p>②-2 総合的な学習の時間を中心に「一歩前へ。よりよく伝える・つながる」防災学習を、カリキュラムマネジメントする。</p> <p>③生徒アンケートにおいて「行事では、みんなが活躍するチャンスがある」、「先生は、生徒の意欲を大切にしたい指導をしてくれる」がそれぞれ90%以上</p> <p>活動計画</p> <p>①毎月の保健だよりや朝食レシピコンテスト、新しい生活様式により健康の維持増進を啓発する。</p> <p>②-1 天候不順時、交通安全週間等、時機を捉えて交通安全を呼びかける。</p> <p>②-2 N I E等を活用し、防災教育を推進する。</p> <p>③生徒会・委員会活動において、行事の計画・運営に主体的に取り組ませる。</p>	<p>②-2 日本防災士会徳島県支部から講師を招聘したり、体験活動を盛り込んだりして、防災学習をマネジメントをすることができた。</p> <p>③91.6%, 94.2%で目標を達成できた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①保健だより・給食だよりによる啓発と、日頃の給食指導により、健康の維持増進を啓発した。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、登校時の健康観察、換気、マスクの着用、手指消毒を徹底した。</p> <p>②-1 時機を捉えて、学活やマチコミ等で、登下校時の安全を呼びかけた。</p> <p>②-2 昨年度のN I E等を活用した取組の上に、新たな視点を加えた防災教育を行った。</p> <p>③体育祭、文化祭、毎回の委員会活動等、生徒が企画し、自主的に取り組んだ。</p>	<p>故が多発している箇所を示し、入学前の安全点検と事故防止を呼びかけた。</p> <p>悪天候時の登校、日没後の下校等について、マチコミによる時機に応じた注意喚起は効果があった。</p> <p>②-2 校区の災害の状況や避難の在り方を学習し、人権集会で発信することができた。</p> <p>③生徒主体で、行事の計画から運営、ルール作り、新型コロナウイルス感染症の予防対策まで行われている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し、交通安全指導をさらに強化する。 ・悪天候時の登校、日没後の下校等について、時機に応じた注意喚起を継続する。
<p>4 家庭・地域との連携</p>	<p>① 積極的な情報発信</p> <p>② 体験活動の充実</p> <p>③ 地域行事への参加</p>	<p>評価指標</p> <p>①保護者アンケートにおいて「学校の様子がよくわかる」、「学校・家庭・地域と連携できている」がそれぞれ90%以上。</p> <p>②生徒アンケートにおいて「体験活動や実践活動で得たことが自分の生活に影響を与えている」が80%以上。</p> <p>③地域行事への参加3回以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 学校ホームページや学年だより、新聞やテレビ等を通じて教育活動の様子を積極的に発信する。</p> <p>①-2 欠席時の家庭連絡等を欠かさず行うとともに、学校運営の方針や教育活動の状況について、保護者や地域の方々に説明し、理解と協力を得る。</p> <p>②総合的な学習の時間を中心に、キャリア教育や文化的な出前授業、地域の人財を活用した実践を行う。</p> <p>③地域の行事等に参加・協力する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①86.9%, 89.8%で目標を達成することはできなかった。</p> <p>②80.1%で目標を達成できた。</p> <p>③教職員や有志の生徒による参加はできたが、部活動や委員会による地域行事への参加はできなかった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 従来の情報発信に加え、新聞やテレビ等を通じた情報発信をすることができた。</p> <p>①-2 欠席時はもとより、こまめな家庭連絡を行うことで、教育活動に対する理解を得た。保護者アンケート「本校の教職員は子供たちを大切にしていると思う」は100%であった。</p> <p>②校外学習や防災学習では地域の方や専門家の協力を得て地理的特徴や歴史遺産を活用した学習をすることができた。また、ダイバーシティ推進課、徳島県中小企業団体等、専門家の協力を得た取組により、生徒のキャリア発達につながる学習をすることができた。</p> <p>③教職員や有志の生徒による参加はできたが、部活動や委員会による地域行事への参加はできなかった。</p>	<p>総合評定 (評定) B (所見)</p> <p>①多様な媒体を使って情報発信を行うことができた。</p> <p>人権集会のリハーサルを保護者参観の機会としたことで、生徒の活動の様子を実際に見てもらうことができたが、学校行事等を公開することができず、教育活動の様子を十分に伝えることができなかった。</p> <p>②体験活動の充実により、社会に開かれた教育課程を実現することができた。校外学習を実施し、地理的特徴や歴史遺産を生かした取組をすることができた。</p> <p>③コロナ禍にあつて、地域行事等への十分な参加はできなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にありながら、いろいろな行事をしていてすばらしい。普通に行事ができるようになったら、地域行事にも参加してほしい。 ・学校行事のオンデマンド配信にも取り組んでほしい。 ・地域の教育力や外部人材を活用した取組がよく行われている。 ・地域との関係性がよく、結束力が強い。できる人ができることをするという形で、子どもが卒業しても何かの形で関わりたい。
<p>5 働き方改革</p>	<p>① 業務内容の精選</p> <p>② 教職員の意識改革</p>	<p>評価指標</p> <p>①負担軽減が可能な業務、専門機関と連携することができる業務を1つ以上つくる。</p> <p>②自己評価70%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①中教審答申に示されている「基本的には学校以外が担うべき業務」について、専門機関との連携を図る。</p> <p>②健康の保持や自己研鑽の時間の確保について啓発する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①いくつかの業務について、教職員の負担を軽減することができた。</p> <p>②25.0%で目標を達成できなかった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①文化祭の Zoom による配信、入学説明会のオンデマンド配信、こども女性相談センターとの連携等により、生徒にとってよりよい支援と教職員の負担軽減ができた。</p> <p>②校務支援システムでの出退勤管理の開始が遅れた。組織の中心となる教員の勤務時間が長い。</p>	<p>総合評定 (評定) C (所見)</p> <p>①関係機関との連携には一定の成果があった。</p> <p>②新学習指導要領やG I G Aスクール構想等の好事例を情報交換することで、自己研鑽は促進されたが、校務負担の偏りは解消できていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムでの出退勤管理を徹底する。 ・健康の保持や自己研鑽の時間の確保について啓発するとともに、校務分掌の偏りを見直す。

「評定」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった